

事業完了報告書（奈良市）

調査研究期間等

調査研究期間	令和5年5月31日 ～ 令和6年3月15日
調査研究事項	<p>≪委託研究：夜間中学における教育活動充実に係る調査研究≫</p> <p>I. 教育課程、教育環境整備に関すること</p> <p>②不登校経験者の支援の在り方</p> <p>③中学教育を実施するために必要な日本語指導の在り方</p>
調査研究のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語について「話せない」「読めない」「書けない」など様々な課題を持つ生徒一人ひとりの学びの充実を図り、効果的な学習指導の方策を研究する。 ・夜間学級未経験教員の授業力向上を図る。 ・不登校をはじめ多様な背景を持つ生徒支援のための相談体制の整備を行う。
調査研究の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導力の向上のため研修や校内研究授業等を行い、指導方法の改善や自主教材の作成を行うことで、言葉や文字の分からない生徒に理解しやすい指導ができた。 ・義務教育を不登校等の理由で形式的に卒業した生徒が、学び直して入学し、高等学校等への進学を希望するというような生徒個別の実態を把握し、必要に応じて関係機関とも連携し適切な支援を図ることで、3年生の進路実現へとつなげることができた。 ・生徒個々の多様性や特性に対応するため、教員のカウンセリングマインドを高めるとともにソーシャルワーク的視点を学び、相談体制の整備に努めたことにより、生徒からの相談に応じることが増え、生徒が安心して学校生活を送ることができるようになり、出席率が向上した。 <p>【4月・5月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の指導方針の共有・確認 <ul style="list-style-type: none"> 国籍、年齢、背景や置かれている状況等が多岐にわたるため、個々の生徒についての情報を共有した。また、生活面や心情面で不安を抱えながら過ごしている生徒については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携を図りながら対応を行った。 また、日本語指導未経験者が着任した場合でも授業に支障

なく対応できるよう教材研究等の授業準備体制についても共通理解を図った。

【6月】

- ・校内研修 『テーマ：教員のカウンセリングマインドを高める方法について』
不登校等の理由で形式的に卒業した生徒、年齢層の幅がある生徒、外国籍生徒等の個々の多様性や特性に対応するため、教員のカウンセリングマインドを高めるための研修を実施した。不登校等の問題を抱える生徒や保護者、ストレスを持った学校の教員の相談に応じた経験から確立された独自のカウンセリング技法「気づきノート」について学んだ。

【7月】

- ・校内研修 『テーマ：学力の基礎となる日本語力を高めるための、個々の生徒への指導方法について。』
日本語指導の専門家を招き、一人一人の学習経験や日本語の習得状況に合わせた個別のニーズに応じた授業の工夫の在り方を学んだ。生徒たちの学習がどの段階にあるのかや、取り巻く状況を把握し個々の生徒に合わせた指導の工夫が必要であること、日本語指導にマニュアルがないということが再確認できた。
また、夜間学級に通う生徒たちが多様化する中、教員が日本語指導をどのように進めていくのかを具体的に考える良い機会となった。
- ・校内研修 『テーマ：日本語指導において、オリジナル教材を作成する工夫について①』
前回の研修後の質問事項への回答から、日本語の指導内容の検討を行い、「話す」だけでなく「書く」場面をつくることや、教員が一言一言積み重ねることの大切さを再認識した。また、個別のオリジナル教材の作成のヒントとなる教材例を提

示していただき、生徒の実態を把握した上で教材作りや授業作りをしていく（言葉の理解に絵やイラスト、写真などを一層活用する）ことが必要であるとあらためて認識することができた。

【8月】

・先進校視察 京都市立洛友中学校を訪問し、日本語指導のあり方や不登校経験者の支援のあり方について他校での取組や情報を知る良い機会となった。昼間部と夜間部の生徒たちが、ふれあいながら共に学び、共に楽しむことを体感する中で、人と人とのつながりの大切さを感じ取り新たな生きがいを生み出していることを知った。不登校経験者の支援については、必要に応じて、生徒一人に対して複数の教員がついて学習できる環境づくりや生活・進路などの相談体制をより一層充実させていきたい。

・校内研修 奈良市の教育支援・相談課の指導主事による、特別な配慮を要する生徒（不登校経験者を含む）についての校内研修および、奈良市のスクールソーシャルワーカーによる校内研修を実施し、相談体制のあり方や、ソーシャルワーク的視点について学んだ。様々な困難さに直面している生徒への対応の基本として「変わるのは大人」であること、また「させる」のではなく「引き出す」ことが大事であること、そしてその生徒を支援するためにはその生徒をより深く知る視点が大切であり、支援の継続性やチーム支援のプロセスの大切さについても理解を深めることができた。

【9月】

・校内研修 『テーマ：日本語指導において、個々の生徒のニーズに応じたオリジナル教材を使用した授業の工夫について』
前回の研修を受けて、2人の教員が、作成したオリジナル教材を活用した研究授業を行い、研究協

議を行った。当日は研修講師や大学教授も参加された。生徒個々の日本語学習の目標やニーズが把握できているのか、目標やニーズに合った日本語の学習内容になっているのかを考えることが重要であるということや、生徒に質問をした後、すぐに教員が答えを言うのではなく、生徒が話すのを待つことが必要であること、授業での質問と答え以外でも、日本語を聞いたり、話したりして、慣れるような時間が必要であること、さらに、生徒主体の学習活動の中で、言語活動で表現させ、それを評価（ほめる）する場面をつくり、学習活動を支援するような展開も大切である等の意見交流を行うことができた。

【10月】

- ・校内研修 『テーマ：今後の夜間中学の在り方について』
長年本校で勤務された方を招いて、これまでの取組を振り返り、本校の現状について成果や課題を共有し、今後どのような取組が必要かということを議論した。夜間学級では、基礎学力を習得させることのみならず、夜間学級の生徒が社会に参画していく力を獲得させることが重要である。そして、教員に求められることは人間として尊厳を大切にし、よき伴走者として寄り添い励ます力量であるということ共有した。

【11月】

- ・校内研修 『テーマ：日本語指導において、個々の生徒のニーズに応じたオリジナル教材を作成する工夫について②』
研修講師と個々の生徒のニーズに応じたオリジナル教材を作成する工夫について、意見交換を行った。教室の主人公は生徒である、個別のニーズに応じた教材を作成し、授業をすることも勿論大切であるが、教員は生徒の持っている「もの」を引き出し、一方的に話すのではなくファシリテーター

タ一的役割を担い、生徒主体になる指導方法を工夫し、授業改善に取り組むことが大切であることを課題として共有できた。

【12月】

- ・全国大会 2023年度第69回全国夜間中学校研究大会で分科会発表や公開授業を行った。研究協議では、本調査研究テーマに関係する意見や助言もいただくことができた。また、2日目の「奈良からの発信」で、春日夜中生も参加し、群読などの発表を行った。

【1月】

- ・地域交流 夜間学級が窓口になり、春日中学校区の児童生徒・保護者・地域の方々と夜中生がともに、漢字検定を受検した。夜中生については、国語科や日本語指導において、漢字学習にも力を入れているため、良い機会となった。

【2月】

- ・総括会議 総括会議を行い、調査研究によって得られた成果・効果と課題を協議し、総括した。また、次年度にどのように生かすのかを協議した。実施した研修や取組によって、教育的効果が高まったと評価できた。今後も職員研修を継続して行い、教員個々の指導力向上を図り、学校運営や教育活動に生かしていきたい。

- ・文集作成 1年間の学習成果をまとめた文集「かすが」を作成し、夜間学級で学んだ生徒の成果物を関係機関や団体へ配付した。

【通年】

- ・情報発信 自校の取組や成果について、本校のホームページで適宜発信し、本校の教育内容や実践を広報した。今

	後も春日中学校夜間学級を周知するため、広報していく。
--	----------------------------